

次の日から、少女はまたマッチを売りました。
ところが、何故か町の人々は近寄って来ません。

じつは、
「放射能の検査がイイカゲンで、8000 ベクレル /kg 以上の瓦礫もリサイクルされている。しかも、その基準値には正当な根拠が無い。」
という情報が町中に流れていました。



結局、少女は大量のマッチを処分できなくなって、困ってしまいました。
そして、捨てることもできないまま、大人になりました。



ある日、男が訪ねて来ました。
見るからにリッチです。
流行先取りの、Gジャンの袖引きちぎりに、G短パンという出で立ち。

こんな人、町で見かけた事ない…
でも、リッチな香水では隠せない、血生臭く、腐敗した匂いが…
そして、何か、悪魔に取り憑かれたような目…